

報告事項ウ

令和元年度発達障がいと診断された幼児・児童・生徒の在籍者数
調査の結果について

令和元年度発達障がいと診断された幼児・児童・生徒の在籍者数調査の結果
について、別紙のとおり報告します。

令和元年10月16日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

(別紙)

令和元年度発達障がいと診断された幼児・児童・生徒の在籍者数
調査の結果について

令和元年10月16日

特別支援教育課

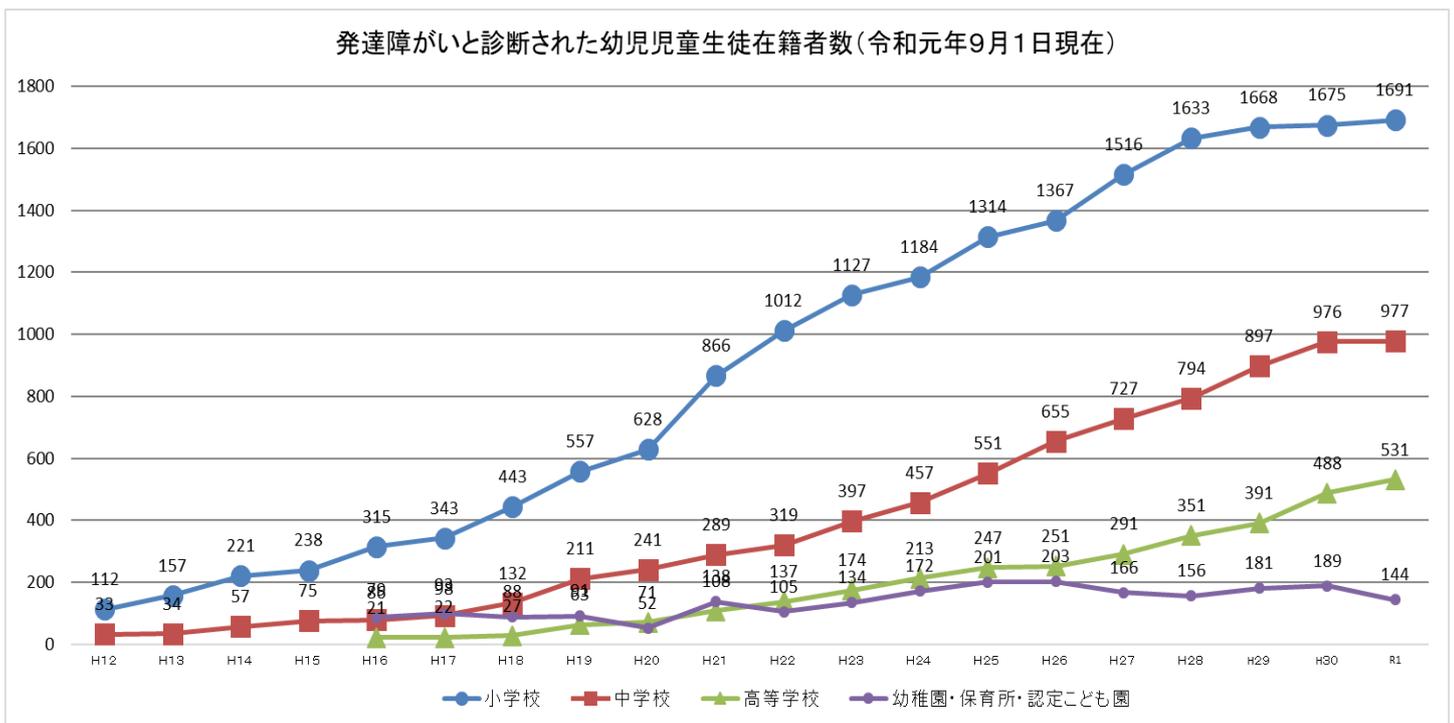
<調査について>

「発達障がいと診断された幼児・児童・生徒の在籍者数調査」(令和元年9月1日現在)

- ・調査日 令和元年9月2日から9月24日
- ・調査内容

県内の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校(専修学校を含む)が把握している発達障がいと診断された幼児・児童・生徒在籍者数。

※幼稚園・保育所・認定こども園、高等学校は、平成16年度より調査を実施



<推移について>

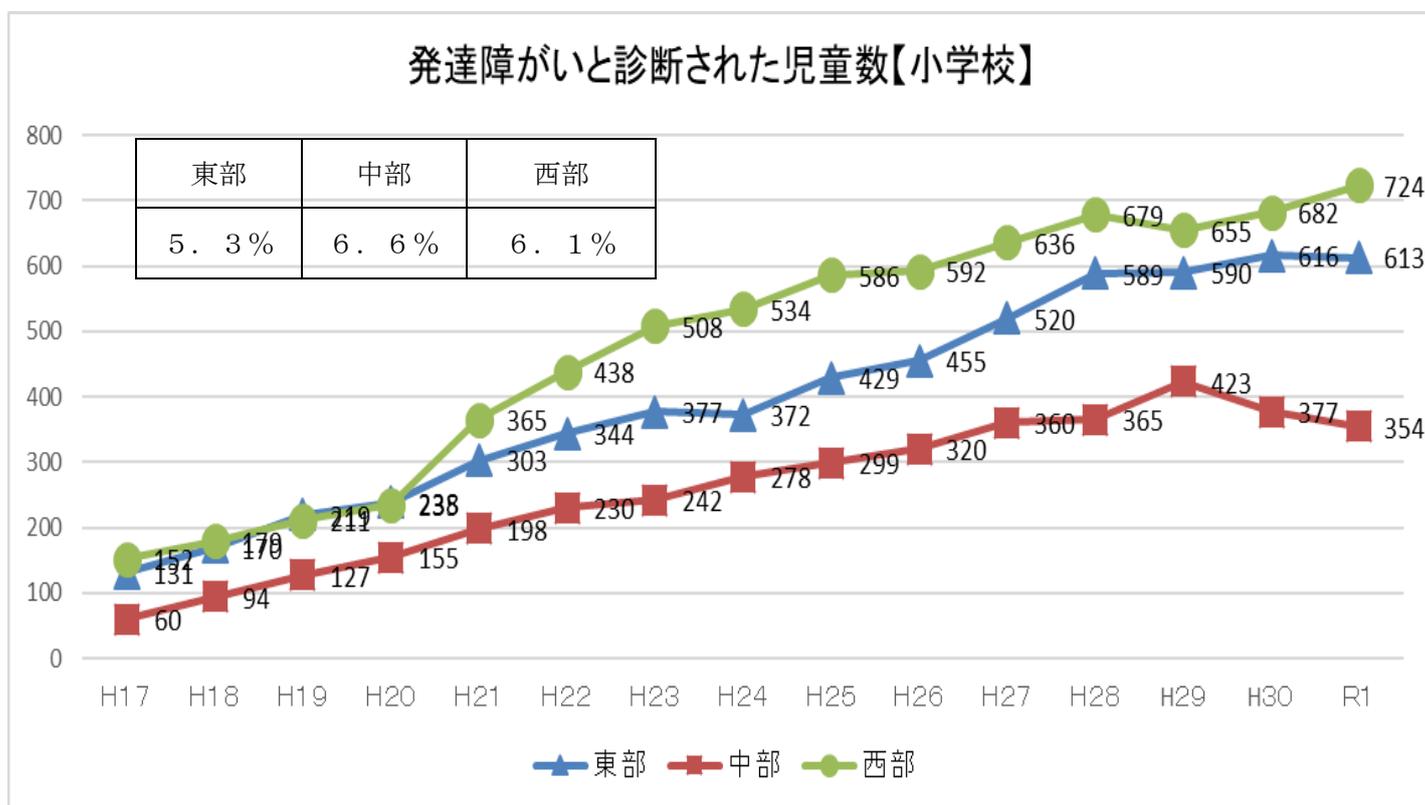
- ・幼稚園・保育所・認定こども園は減少、小学校、中学校については、横ばいの傾向、高等学校では増加がみられる。
- ・小学校及び中学校については、通常学級に在籍する児童生徒の割合が減少し、特別支援学級に在籍する児童生徒の割合が増加している。
- ・幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校においては発達障がいについて広く周知され、気づきから対応へ理解の視点が変わってきたと思われる。そして、高等学校については、高等学校における特別支援教育に対する取組が浸透したことにより、診断をオープンにする本人及び保護者が増えたことによると推測される。

<全児童生徒数に対する割合（令和元年9月1日現在）>

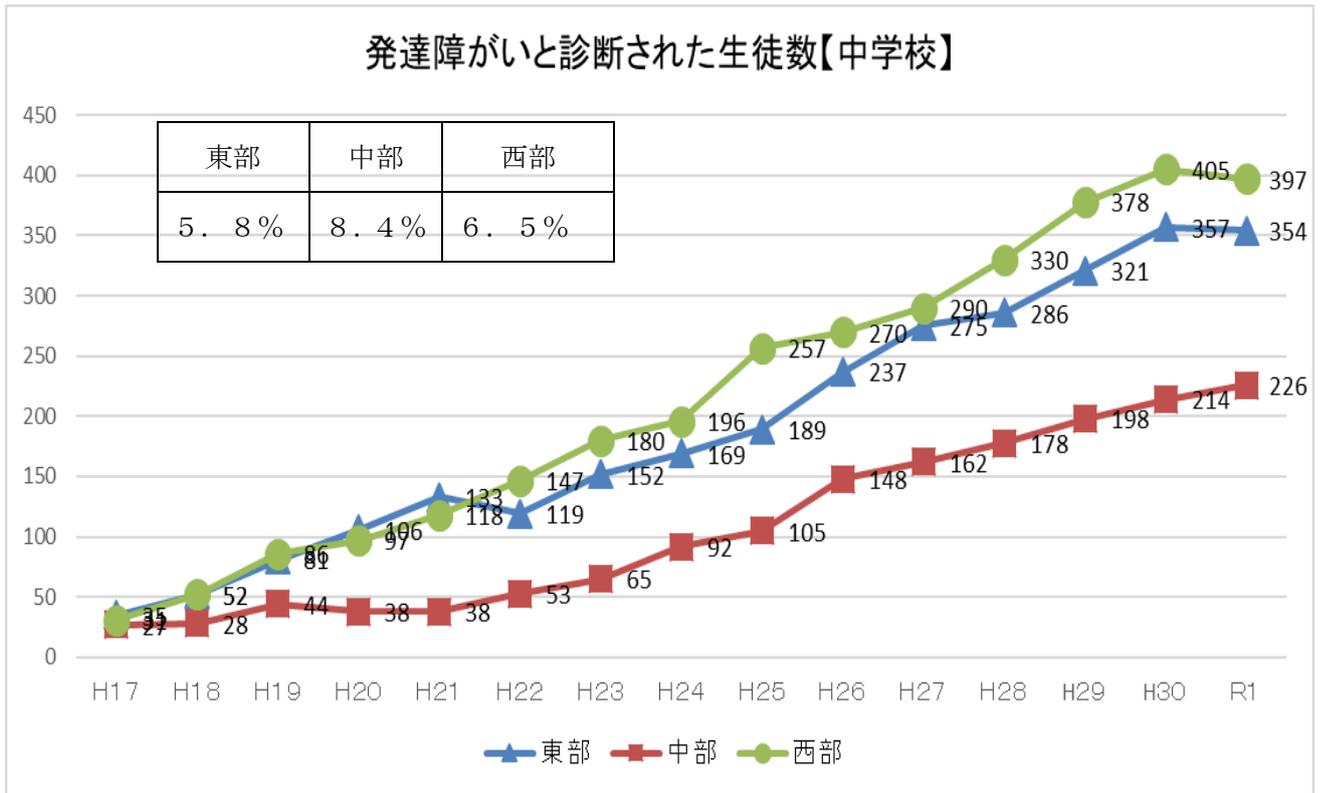
	全児童生徒数(人)	在籍者数(人)	割合(%)
全 体	59,056	3,199	5.4%
小学校	28,851	1,691	5.9%
中学校	14,942	977	6.5%
高等学校	15,263	531	3.5%

【参考1】 圏域・校種別の発達障がいと診断された児童生徒数の推移

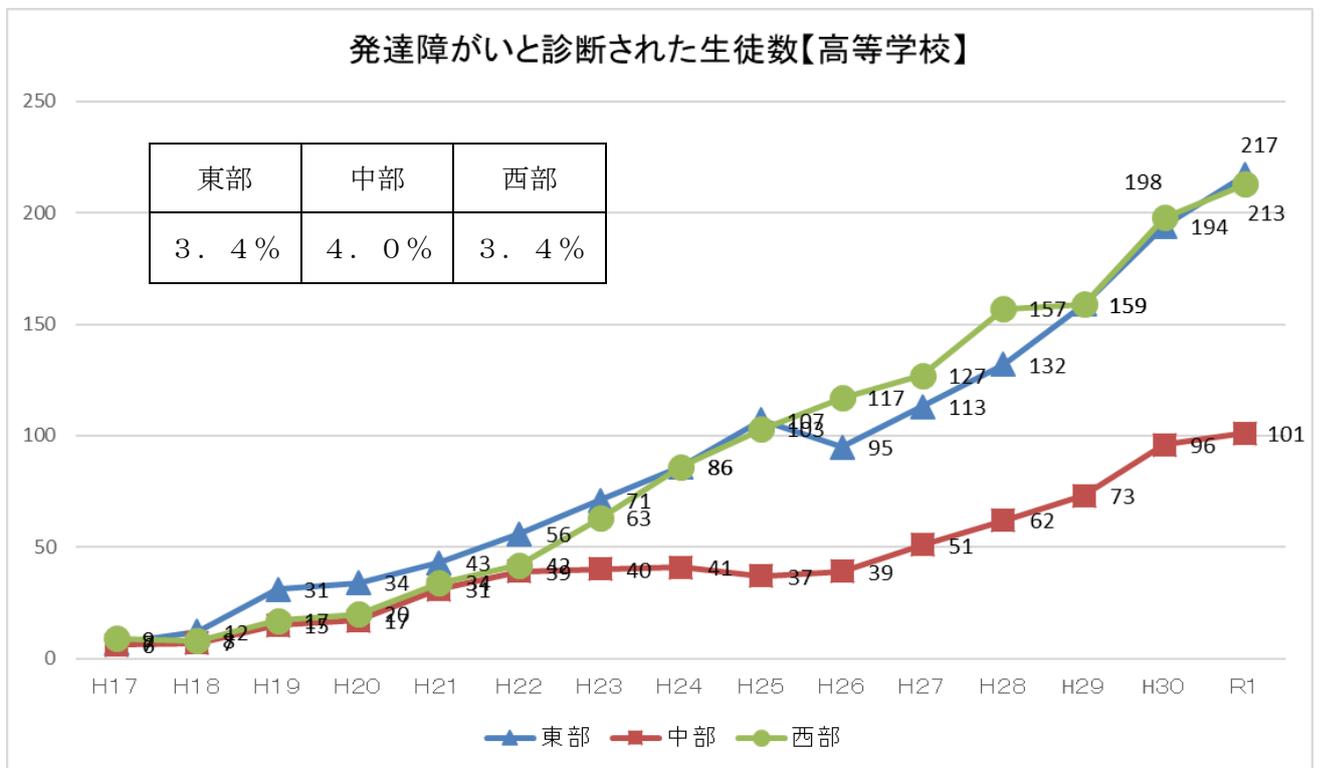
【小学校】 各圏域全児童数に対する割合



【中学校】各圏域全生徒数に対する割合



【高等学校】各圏域全生徒数に対する割合



【参考 2】 発達障がいの診断を受けている児童生徒の教育の場について

<小学校>

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
全体	1,367	1,516	1,633	1,668	1,675	1,691
通常の学級に在籍	918 (67.2%)	992 (65.4%)	1,057 (64.7%)	996 (59.7%)	985 (58.8%)	955 (56.5%)
上記のうち通級による指導を受けている児童 ※母数は通常の学級に在籍する児童数	265 (28.9%)	265 (26.7%)	281 (26.6%)	274 (27.5 %)	260 (26.4 %)	247 (25.9%)
特別支援学級在籍	449 (32.8%)	524 (34.6%)	576 (35.3%)	672 (40.3%)	690 (41.2%)	736 (43.5%)

<中学校>

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
全体	655	727	794	897	976	977
通常の学級に在籍	453 (69.2%)	505 (69.5%)	527 (66.4%)	600 (66.9%)	608 (62.3%)	591 (60.5%)
上記のうち通級による指導を受けている生徒 ※母数は通常の学級に在籍する生徒数	40 (8.8%)	51 (10.1%)	77 (14.6%)	89 (14.8%)	102 (16.8%)	97 (16.4%)
特別支援学級在籍	202 (30.8%)	222 (30.5%)	267 (33.6%)	297 (33.1%)	368 (37.7%)	386 (39.5%)